



自治・文化・経済部会資料

## 施策4-2-3 科学技術を活かした研究開発基盤の強化

経済労働局  
令和4年6月

### 資料をご覧ください。上での注意事項

掲載している数値等は、6月2日（令和4年度川崎市政策評価審査委員会第3部会の開催日）時点のものであり、今後、修正・変更になる可能性があります。

# 施策の概要

概要 背景 取組 成果 まとめ

## 基本政策(1層)

活力と魅力あふれる力強い都市づくり

## 政策(2層)

新たな産業の創出と革新的な技術による生活利便性の向上

## 施策(3層)

科学技術を活かした研究開発基盤の強化

### 直接目標

先端科学技術分野において、高付加価値で競争力の高い製品を創出する

### 主な事務事業

新川崎・創造のもり推進事業

ナノ医療イノベーション推進事業

川崎市コンベンションホール管理運営事業

# 実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標①		新川崎・創造のもり地区における特許保有累計件数			
算出方法	新川崎・創造のもり地区に拠点を有する企業、研究機関が保有する特許の累計件数				
指標の考え方	先端科学技術分野の製品化を進めるにあたっては、当該技術の特許申請により製品化まで進む可能性のある案件を早期に把握できることから、特許保有件数を指標として設定することで、新産業創出の取組の成果を測ることができる。				
指標の目標値	第1期策定時 94件(H26)	第1期目標 96件以上(H29)	第2期目標 160件以上(R3)	第3期目標 180件以上(R7)	
目標値の考え方	<p>先端技術分野の研究開発については、製品化まで見据えた知財戦略の策定⇒特許申請⇒特許取得というプロセスに数年の時間を要することから、現在進んでいる研究の成果が特許となる時期をH30(2018)以降と想定するとともに、新たな産学交流・研究開発施設「AIRBIC」がH30(2018)中に本格供用開始することから、R4(2022)以降、年間5件以上の新規特許が生み出されることを目標とする。</p> <p>H28(2016)年度の実績が第3期の目標値を上回ったため、目標値を変更            ・第2期: 100→160件 ・第3期: 120→180件</p>				



# 実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

## 成果指標②

### ナノ医療イノベーションセンターの入居率

#### 算出方法

入居部屋数／全入居可能部屋数×100(%)

#### 指標の考え方

ナノ医療イノベーションセンターは、先端医療を広く普及・浸透させるための「ナノ医療技術」の研究及び研究成果の実用化を進める施設であり、企業入居率は、オープンイノベーションへの取組の成果を測ることができる。

#### 指標の目標値

第1期策定時  
44%(H27)

第1期目標  
60%以上(H29)

第2期目標  
90%以上(R3)

第3期目標  
90%以上(R7)

#### 目標値の考え方

平成27年(2015)年4月に運営を開始し、7年間で入居率90%を達成した。その後は、入居企業による入退室が行われることを想定し、入居率90%を維持することを目標とする。

## 成果指標③

### 川崎市コンベンションホールの稼働率

#### 算出方法

利用日数÷全利用可能日数×100(%)

#### 指標の考え方

企業・研究者・技術者等の交流機会の創出・拡大を通じて、オープンイノベーションを促進する新たな交流拠点として、川崎市コンベンションホールを整備することから、当該施設の稼働率を指標に設定することで、オープンイノベーションの促進に向けた取組の成果を測ることができる。

#### 指標の目標値

第1期策定時  
—

第1期目標  
—

第2期目標  
55%以上(R3)

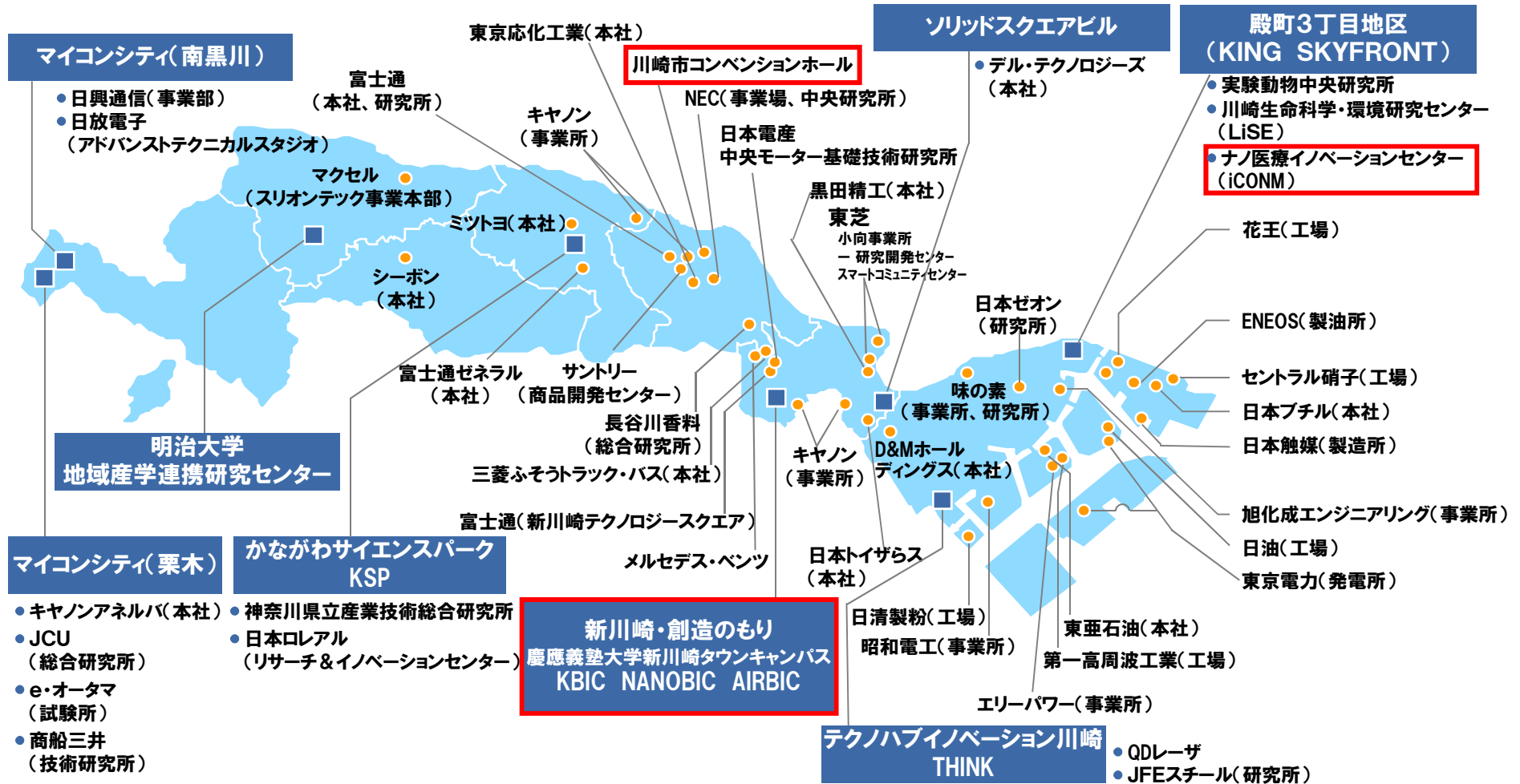
第3期目標  
60%以上(R7)

#### 目標値の考え方

講演会、展示会、交流会等の開催により、コンベンション施設が有効に活用され、施設の安定的な運営が図られるよう、H30(2018)の開館から稼働率の段階的な向上をめざし、最終的には、60%以上の稼働率を目標とする。

# 川崎市の産業基盤

- 優れた技術を持つ企業や専門人材、550以上の研究開発機関が集積
- ICT、環境、ライフサイエンス、ウェルフェアなど先端産業の集積



# 新川崎・創造のもり

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 新川崎・創造のもりは、2000年の慶応義塾大学新川崎タウンキャンパス開設を皮切りに、2003年にかわさき新産業創造センター「KBIC本館」、2012年にナノ・マイクロ産学官共同研究施設「NANOBIIC」、2019年に産学交流・研究開発施設「AIRBIC」が運営を開始し、約20年に渡る、産学官が連携するオープンイノベーション拠点の段階整備が概成しました。
- 慶応義塾大学新川崎タウンキャンパスでは、5棟(K棟、E棟、I棟、O棟、厚生棟)の中で16の研究プロジェクトが進められており、力触覚制御技術の研究成果をもとに立ち上げたモーションリブ(株)など、革新的な技術を有する大学発ベンチャー企業が創出され始めています。
- かわさき新産業創造センター(KBIC本館、NANOBIIC、AIRBICの3棟で構成)は、約100室、8,100㎡のラボを有する首都圏最大級のインキュベーション施設であり、50者が入居しています(令和4年6月1日現在)。





# ①新川崎・創造のもり推進事業

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

## ＜セミナー等の実施による産学交流の機会創出の促進＞

- K2セミナー等の開催（開催回数・参加人数 H30: 8回・274人、R1: 5回・114人、R2: 8回・250人、R3: 8回・270人）
- ナノ・マイクロ技術支援講座の開催（開催回数・参加人数 H30: 12回・239人、R1: 12回・217人、R2: 11回・717人、R3: 12回・864人）

## ＜市内企業等の新技術や新製品の開発を促進するため、ナノ・マイクロ関係の研究機器を利用する費用の一部を助成＞

- ナノ・マイクロ機器利用促進補助金（H30:1件、R1:2件、R2:1件、R3:1件）

## ＜「新川崎地区ネットワーク協議会」や研修会等の実施を通じたオープンイノベーション基盤の構築＞

- 新川崎地区に立地する企業・大学からなる「新川崎地区ネットワーク協議会」での活動を通じ、新川崎地区を拠点とした産学連携・産産連携による新たな技術開発を促進

## ＜AIRBICの整備推進及びAIRBICを拠点としたオープンイノベーションの推進＞

- 指定管理者と連携し、オンラインによるマッチングイベントやピッチイベント等を開催

## ＜量子コンピューターの普及等の取組＞

- ゲート型商用量子コンピューターがNANOBIICに設置されたことを契機として東京大学及び日本アイ・ビー・エム（株）と量子コンピューティング技術の普及等に関する協定を締結し、2021（令和3）年7月には稼働開始に伴うセレモニーを連携して開催
- 若年層向けに分かりやすく量子コンピューターを説明する動画を制作し、市内外各所で放映する等の周知を実施



K2セミナー等（H30年度～R3年度）  
29回開催 延べ908名参加



ナノ・マイクロ技術支援講座（H30年度～R3年度）  
47回開催 延べ2,047名参加

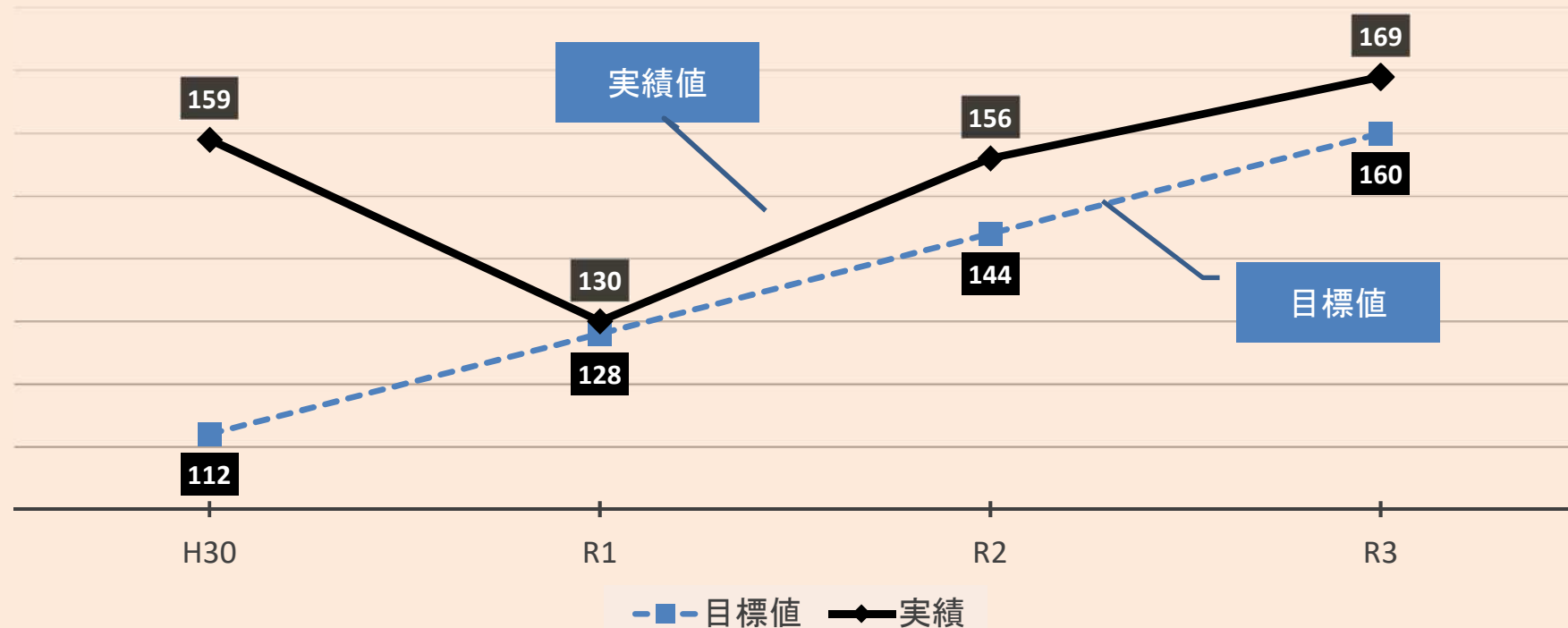


# 成果指標①の達成状況(目標達成)

## 新川崎・創造のもり地区における特許保有累計件数の推移

- 新川崎・創造のもり地区内のかわさき新産業創造センター(KBIC)では、入居する企業等の入退去があるため、年度により特許保有累計件数に増減がありますが、入居者の研究開発を加速させるため、指定管理者がマッチング等のオープンイノベーションを推進しており、各年度において目標値を上回っています。

### 特許保有累計件数の推移



# 成果指標①の成果分析

## 新川崎・創造のもり地区における特許保有累計件数の成果分析

- 新川崎・創造のもり地区における特許保有累計件数は、立地する全ての企業・研究機関等に対して個別にアンケートを依頼し、回答があったもののみ集計しています。(令和3年度回答数:22団体/60団体)
- 特許保有については、研究開発の根幹をなす秘匿性の高い情報であるため回答を控える企業も存在するなど、調査協力の可否は各団体の運営方針等に影響され、回答が得られる企業や研究機関は固定化する傾向があります。
- かわさき新産業創造センター(KBIC)は、公の施設設置条例で入居期限が設定されており、入退去があることを前提としています。
- かわさき新産業創造センター(KBIC)では、指定管理者が知財を含む経営に関する相談対応や知財セミナー、マッチングイベント等を開催することにより入居者の研究開発力の強化に取り組んでおり、これらの活動が特許の取得に有益であると入居者から評価を受けています。



外部講師による知財セミナー



オンラインマッチングイベント

# ナノ医療イノベーションセンター(iCONM)の整備

概要 背景 取組 成果 まとめ

- キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成を推進するにあたり、核となる先導的な施設として整備
- 平成25年2月「地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業」(文部科学省)に、市の依頼により川崎市産業振興財団が事業者兼提案者として申請。
- 平成27年4月「ナノ医療イノベーションセンター(iCONM)」設立

## 多機関・産学官連携型アンダーワンルーフ拠点

物理的な近接性を生かし、同じ目標に向かってヒト・モノ・カネ・チエが他機関や産学官の間で横断的に交流できる拠点

**iCONM**  
Innovation Center of NanoMedicine



- ・敷地面積：7,999.99㎡
- ・延床面積：9,444.04㎡
- ・階数：地上4階建
- ・運営：川崎市産業振興財団
- ・主要設備：微細加工、合成系実験室、生化学系実験室、ヒト疾患モデル研究室



- ・オープンスペースを多用
- ・マグネットエリアで出身母体にとらわれない交流を促進

交流を促進するハードの設計と共通機器の整備（微細加工・有機合成・細胞培養・生物実験）  
→誰もが出身を気にせず課題解決型研究に取り組める環境整備

# iCONMの中核研究～「体内病院」の実現～

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

- 平成25年10月「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)拠点」(文部科学省)に、川崎市産業振興財団を代表機関とする「スマートライフケア社会への変革を先導するものづくりオープンイノベーション拠点(COINS)」が採択。

- ◆ iCONM/COINSが目指すのは「**スマートライフケア社会**」
- ◆ いつでも・どこでも・だれもが、気づかぬうちに健康になれる社会
- ◆ 究極の先制医療 “**体内病院**” の実現



ウイルスサイズの**ナノマシン**が、体内の微小環境を自律巡回し、  
24時間治療・診断を行う

# 「体内病院」の実現に向けた主な研究テーマ

概要 / 背景 / **取組** / 成果 / まとめ

- 市民の関心の高い身近な問題を研究テーマに設定し、「体内病院」の実現に向けた研究開発に取り組む

## 主な研究開発テーマ

抗がん剤

アルツハイマー  
病の薬

軟骨などの  
再生医療

ワクチン

負担の少ない  
がん治療

迅速診断  
技術

# 研究開発の進展

- 研究支援機能の強化を図るため民間企業における研究開発や知財戦略、広報等に精通した「イノベーション支援グループ」をiCONM内に設置し、市と産業振興財団が共同・連携して研究支援事業に取り組んだ結果、研究及び研究成果の実用化が促進された。



# 成果指標②の達成状況(目標達成)

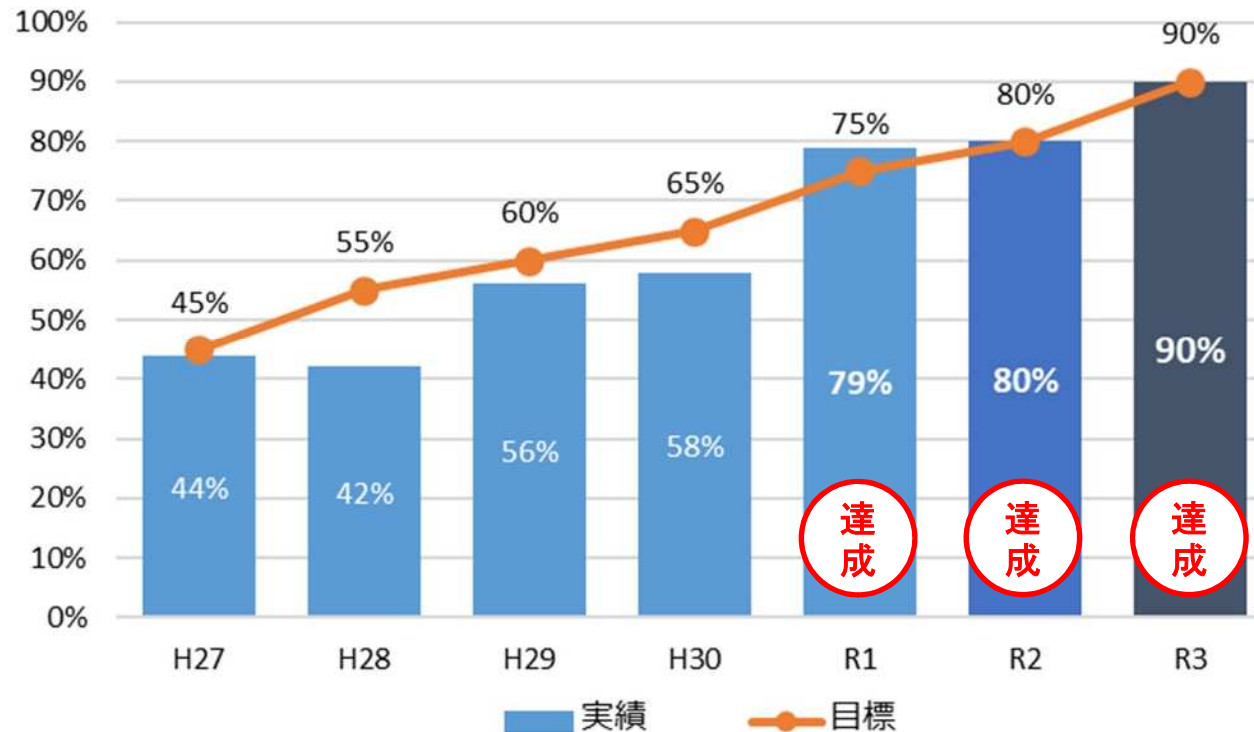
概要 / 背景 / 取組 / **成果** / まとめ

## ナノ医療イノベーションセンターの入居率

- 研究開発が進捗し、その成果創出等により、共同研究を希望する企業の入居も進み、令和元年度以降は入居率目標を達成。

	第1期 策定時 (H27.12)	H30	R1	R2	R3
目標		65%	75%	80%	90%
実績	44%	58%	79%	80%	90%

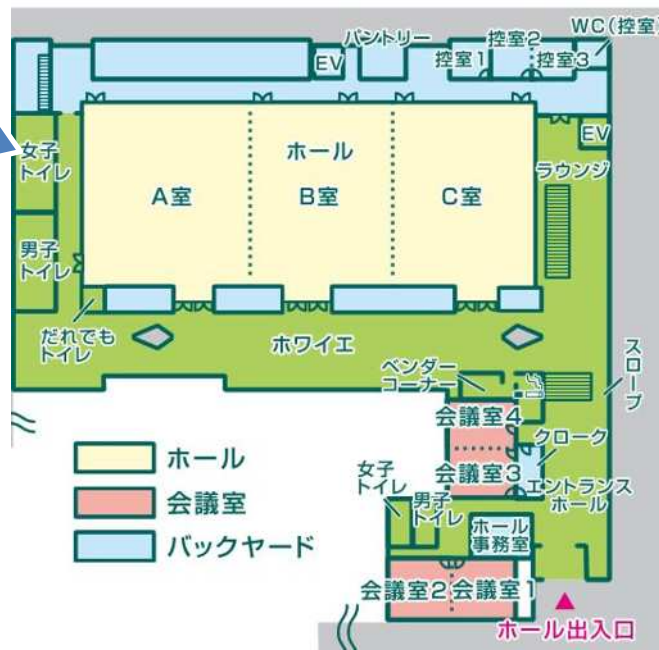
入居率の推移と見込



# 川崎市コンベンションホールについて

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 川崎市コンベンションホールは、武蔵小杉駅から徒歩4分の立地にあるコンベンション施設
- マンション開発業者から躯体の状態で作成を受け、市で内装工事を行い、高層マンションの2階に平成30年4月にオープン
- 約1,000㎡の3分割可能なホールと、4つの会議室があり、国際会議・学術会議・講演会・式典から展示会・イベント・パーティまで、幅広い用途で規模に応じた柔軟な利用が可能
- 「企業、研究機関、市民その他の多様な主体が交流する機会を創出することにより、これらの者間における連携を促進し、もって地域経済の活性化その他の地域の活力の向上に寄与※」することを目的としている ※川崎市コンベンションホール条例 第1条





# 川崎市コンベンションホール管理運営事業

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

- 誘致・プランニング・コーディネート・運営をワンストップで担うなど、民間ノウハウを活用したホールの管理・運営（指定管理者：株式会社コンベンションリンケージ 指定管理期間：第1期5年）
- 顧客開拓のための知名度向上につながる広報の検討・実施  
医療系学会関係者、三井不動産マンション住戸、教育・資格分野関係へのDMやメールの発送
- 新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、安全・安心に配慮したホールの管理・運営  
業界標準のガイドライン※ に準拠した対策を徹底

※日本コンベンション協会の新型コロナウイルス感染症禍におけるMICE開催のためのガイドライン



# 川崎市コンベンションホールの地域における取組

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 川崎市コンベンションホールは、中原区の帰宅困難者一時避難施設に指定
- 地域への還元を目的として、指定管理者の自主事業としてイベント(感謝祭)※を実施  
※新型コロナウイルス感染症の影響で、R2(2020)年・R3(2021)年は中止
- 専修大学とコラボして、地域の飲食店マップを作成し、ホール利用者に無料配布

帰宅困難者用一時滞在施設マップ(武蔵小杉駅版) 平成31年3月現在



## ※感謝祭 開催実績

H30(2018)年9月17日開催  
来場者 約500人  
R元(2019)年8月18日開催  
来場者 約1,000人

マンションに住む親子連れ  
などが多数来場



専修大学商学部の  
学生とコラボして作  
成した新丸子駅周  
辺と武蔵小杉駅周  
辺のランチマップ

# 成果指標③の達成状況(目標未達成)

概要 / 背景 / 取組 / **成果** / まとめ

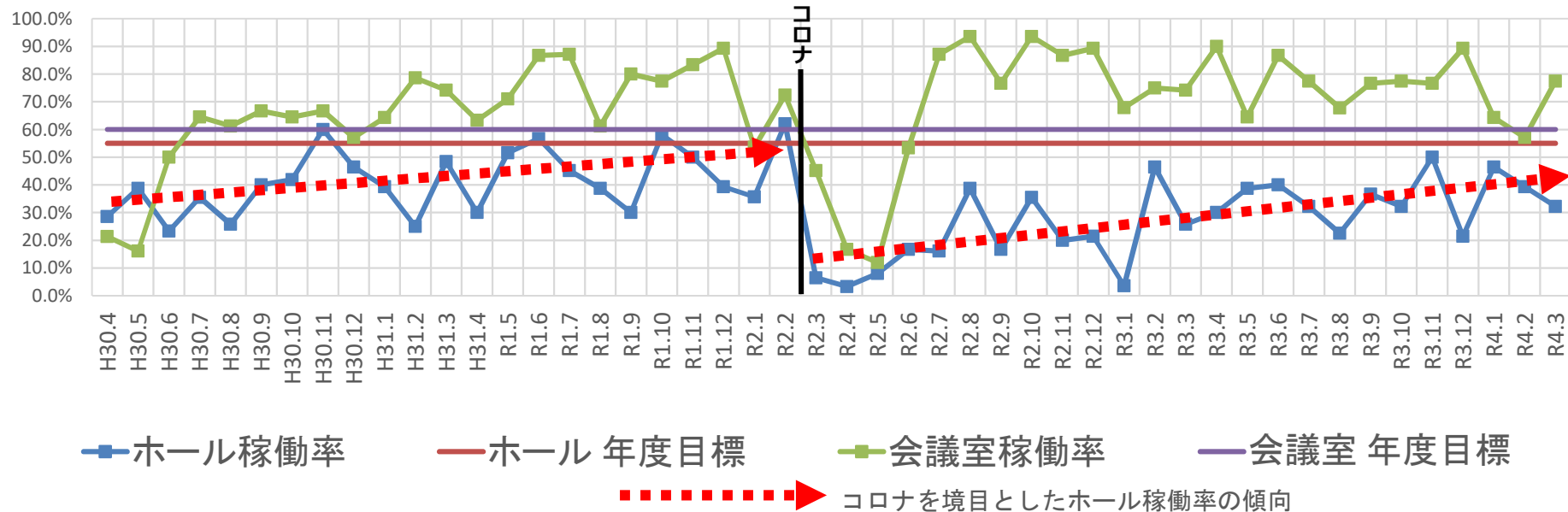
## 川崎市コンベンションホールの稼働率

- 平成30年度の開館当初は低かったものの、令和元年度には前年度の実績値を上回るなど上昇傾向にあった。
- 令和2年3月、新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ前と比較して稼働率が大きく落ち込んだが、傾向としては回復の兆候が見られる。

	第1期 策定時	第2期 策定時	H30	R1	R2	R3
目標	平成30年 4月開設 の施設 のため、策 定時目標 設定なし		55%	55%	55%	55%
実績			38%	42%	21%	35%

稼働率= 利用日数÷全利用可能日数×100(%)

ホール及び会議室の月別稼働率実績と年度目標稼働率



# 成果指標③の成果分析

## 川崎市コンベンションホールの稼働率の成果分析

- 平成30年度の開館当初は実績値が低かったものの、令和元年度は周知・広報等が徐々に浸透したことにより、前年度の実績値を上回った。
- しかしながら、令和2年度には新型コロナウイルス感染症の影響により、**利用者からのキャンセルや借り控え**が発生するとともに、施設としても「新型コロナウイルス感染症に対する本市行政運営方針」を踏まえ、**開館時間の短縮・施設利用定員数の半減・施設内での食事の原則禁止**などを行った結果、実績値が大きく下がった。
- 令和3年度にはコロナ禍でも需要がある**教育・資格等分野への広報**を重点的に行ったことで回復傾向にあるものの、引き続き産業交流の促進を図るため、民間のノウハウを活かした更なる需要の掘り起こしや、市内企業等に対して個別に周知・コンサルティング等を行うなど、改善に取り組んでいく必要がある。

# 成果指標③の成果分析

## 川崎市コンベンションホールのホール稼働率を上げる取組

- ホールの利用促進に向けて、DMやメールの発送、割引サービスについての周知等、広報・PR活動を強化
- リアルとオンラインのハイブリッドでの開催を利用者に提案するなど、民間のノウハウを活かした適時適切なコンサルティングの実施

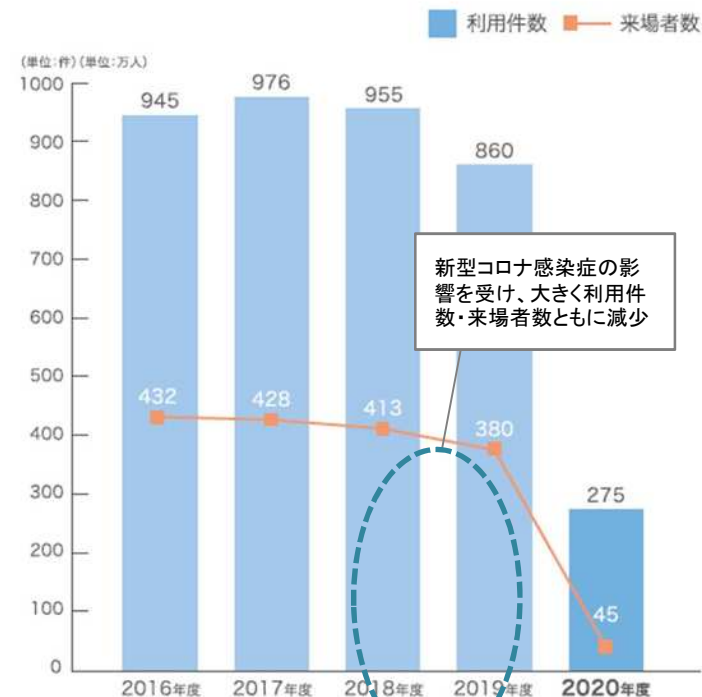
### (1) 利用促進に向けた広報活動としてDM送付

- ・近隣・沿線の上場企業、大学病院、研究機関に対しパンフレット送付500部
- ・近隣の製薬会社に対し、パンフレット送付50部
- ・近隣のテナントビル、予備校、にパンフレットをポスティング50部
- ・大学、高校の試験会場の学外利用の実績のある主催者にパンフレット送付75部
- ・指定管理事業者の運営する他施設で催事主催者に対しパンフレット配布300部
- ・指定管理事業者保有の顧客リストをもとにパンフレット送付100部
- ・在京大使館へパンフレット送付50部
- ・コンベンション主催者へのメール配信2,630件
- ・指定管理事業者による医学学会・企業訪問時にパンフレット配布100部
- ・工業団体に加盟する約1,000社へのDM送付
- ・コロナ禍でも利用が多い進学塾や私立学校等へのDM送付



### (2) 割引サービスの周知

- ・市内企業や市民がホールや会議室を利用する場合に利用料金が1割引になることや、利用日の2週間前からの申込は利用料金が半額になることなどを、企業向けメール配信等でPR



参考: 近隣のパシフィコ横浜の状況

# 成果指標③の成果分析

## その他の成果(数値で把握できる補足指標)

- オンラインの活用によって、小規模な会場でも交流が図られることから、会議室の稼働率についてもモニタリングを行う。

## その他の成果(定性的な成果)

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくい、リアルとオンラインのハイブリッドでの開催を利用者に提案するなど、適時適切なコンサルティングにより、稼働率の改善だけでなく、遠隔地からの参加を容易にすることによる産業交流の裾野拡大にも貢献している。

川崎市コンベンションホール内の会議室の稼働率実績

	H30	R1	R2	R3
実績	59%	73%	70%	75%

(利用日数÷全利用可能日数×100(%))



# 施策の達成状況

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

## 施策の達成状況

**B 一定の進捗があった**(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)

### 理由

- ① 配下の事務事業のうち「川崎市コンベンションホール管理運営事業」は新型コロナウイルス感染症の影響によるキャンセルや利用制限等により目標を下回りました。その他の事務事業については、ほぼ目標どおり進捗しています。
- ② 「新川崎・創造のもり地区における特許保有件数」については、成果指標の目標値を達成しており、さらに施策を構成する事務事業も計画通り実施していることから、順調に推移しています。
- ③ 量子コンピューティングシステムについては、PR動画を制作して市内大型ビジョンやトレインチャンネル等で放映したほか、市政だより等の各種広報媒体への掲載を行い、普及と発展に向けて取り組みました。
- ④ 「ナノ医療イノベーションセンターの入居率」については、研究の加速化に向けた研究支援事業等の取組により、多くの研究テーマが実用化に向けた臨床試験段階に進展する等の成果創出により、共同研究を希望する企業の入居が進み、入居率目標を達成しました。
- ⑤ 「川崎市コンベンションホールの稼働率」については、目標が未達成であったことから、周知・広報の更なる拡大を行うほか、市内企業等に対して個別に周知・コンサルティング等を行い、産業交流の促進に向け、改善に取り組んでいく必要があります。

#### 【施策の達成状況区分】

- A 順調に推移した(目標を達成した)、B 一定の進捗があった(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)  
C 進捗が遅れた(1期策定時を下回るものが多くあった)、D 進捗は大幅に遅れた(1期策定時を大幅に下回った)

# 施策の今後の方向性

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / **まとめ**

## 今後の方向性

### Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)

#### 理由

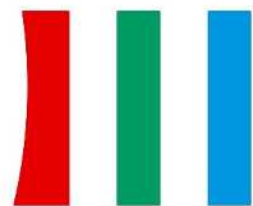
- ① 新川崎・創造のもり地区におけるオープンイノベーションの推進に向けては、量子コンピューター等の先端分野の研究開発に取り組む企業・大学のニーズを踏まえながら、産学・産産連携事業の推進に取り組んでいきます。
- ② ナノ医療イノベーションセンターについては、極めて公益性の高い研究活動を行う研究所として、今後も革新的医薬品の上市、拠点価値の向上や新産業の創出につなげていくため、市と川崎市産業振興財団が共同・連携して研究費の獲得に取り組むなど、成果の実用化に向けた研究活動の支援に取り組んでいきます。
- ③ 川崎市コンベンションホールについてはホールの稼働率のほか、会議室の稼働率もあわせてモニタリングを行うとともに、市内企業等のニーズも踏まえた個別のコンサルティングや、対象を絞った重点的な広報の実施など、民間ノウハウを積極的に活用しながらリピーターを獲得し、ウィズコロナ・アフターコロナでのMICEを推進することで産業交流の促進に向けて取り組んでいきます。

#### 【今後の方向性区分】

I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)、Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)

Ⅲ あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)、Ⅳ 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)





Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市